

# 保健体育授業における言語活動の活性化についての研究

口村 康輔 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：言語活動の充実，体育授業，コミュニケーション

## 1. 緒言

筆者が過去に体験した体育授業は言語活動を用いることが少なく、運動のみでの学習であった。これでは、運動ができる児童とできない児童の両極端に分かれてしまい、児童の授業に対する積極性やモチベーションが大きく異なり、授業に参加しない児童も出てくる可能性がある。このような理由から、教員が言語活動についてどのような理解をしており、実践しているのかを明らかにしたいと考えた。

本研究では、体育授業における、言語活動について、教員がどのような理解をしており、実践しているのかを質問紙調査を行う。調査結果から、実践されている言語活動が体育授業においてどのような効果があるのか、言語活動によって児童に変化があるのかを考察する。考察の結果から、これからの体育授業において言語活動の活性化に何が必要なのかを明らかにしたい。

## 2. 研究方法

体育授業における言語活動に関する質問紙による調査を行う。教員の言語活動への理解、実践内容を明らかにし、実践されている言語活動が体育授業においてどのような効果があるのか、言語活動によって児童に変化があるのかを考察する。考察の結果から、これからの体育授業における言語活動の活性化に何が必要なのかを明らかにする。

## 3. 結果と考察

### (1) 言語活動に対する意識について

自分の思いや考えを明確にし、相手に伝えるという、いわばコミュニケーション活動として捉える教員が多かった。しかし、体育においては、コミュニケーション活動という回答に加え、

言語を通じて運動技術や技のコツを伝達することや、体験したことを自らの身体を用いて表現することだと回答した教員もいた。

### (2) 言語活動の必要性の認識について

ほとんどの教師が知識・理解を深めるため、運動技術・技能を向上させるために言語活動は必要だと回答した。また、苦手な子も一緒に参加するようになった、達からのアドバイスを基にひとりでも練習するようになったなど、集団としてコミュニケーション力が向上したことから、人間関係を良好にするためにも体育授業における言語活動は必要だと回答した。

## 4. まとめ

ほぼすべての教師が、何らかの言語活動を取り入れていくことは必要だと考えている。しかし、現段階で実践している教師とそうでない教師が存在し、言語活動に対する理解度には教師間でバラつきがある。効果的な方法を模索中の教師もいたが、全体的に話し合いの活動のみになる傾向があった。

今後の課題として体育授業において言語活動は必要なものとして捉え、教員が共通の意識の持ち、子ども同士での教え合いや学び合いを積極的に取り入れた言語活動を浸透させていく必要があるとすることができる。

## 引用・参考文献

- 川崎市体育・保健体育科研究会議 (2011)：コミュニケーション能力を高める体育授業の在り方，59
- 木下光正，伊藤久仁 (2008)：新学習指導要領と体育，体育科教育，56-6 大修館書店 10-19
- 佐藤学 (2011)：体育授業における言葉の学び，体育科教育，59-11 大修館書店，9



